



手を貸そう

Lend a Hand

2003-2004年度 国際ロータリーのテーマ

第 2560 地区ガバナー

..... 原 信一
会 長 佐野 勝 栄
会長エレクト 渡 辺 喜 彦(クラブ奉仕 A)
副 会 長 小 越 憲 泰(クラブ奉仕 B)
幹 事 荻根沢隆雄
S A A 杉 山 幸 英
会 計 渋谷 正 一

例 会 日 毎週水曜日 12:30~
例会場及び 三条市旭町 2-5-10
事 務 局 三条信用金庫本店
例 会 場 TEL 35-3311
事 務 局 TEL 35-3477
FAX 32-7095

E-mail: sanjo-ss@web-niigata.ne.jp
web: http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(~は shift を押しながら“へ” のキーを押してください)

本日の出席会員数	65名中50名
先々週出席率	85.48%

会 長 挨拶

佐野 勝 栄 会長



皆様こんにちは、3月に入ってようやく春らしい陽気な天候になってまいりました。先月まで近年にない大雪となり、3日間程連続で家の廻りの雪かきで大汗を流しました。やっと寒波も通り過ぎ、春の足音が近づいて来るのを感じる気候になり、各地では梅の花が咲き、もうすぐ春爛漫の桜も咲き乱れる陽気な季節がまいります。皆様のご家族の中でこの春、お子さんやお孫さんが入学、卒業、就職、などなど、おめでたい事がある方が大勢いらっしゃると思います。私も54回目の春を迎えるのですが、感動、感激などが年を経ると共に薄れて来てまいりましたが、毎年、この桜が咲く頃になると何かウキウキし、心身共にリフレッシュされた様な清々しい気分になれる気がします。

日本の季節が、諸外国にない四季折々があると

先週のメイクアップ

- 2/26 燕へ
加藤紋次郎さん 松谷昊吉さん
- 2/28 R財団セミナー(長岡)へ
西山 徳厚
- 2/29 会員増強セミナー(長岡)へ
長谷川有美さん 細井増雄さん
荻根沢隆雄さん 吉井俊介さん
- 3/1 三条南へ
五十嵐晋三さん

いう事は、大変恵まれていると思います。
日本の雪国で生まれ、育てて本当に良かったとつくづく感じています。それは、これほど地球の大自然の営みを肌で感じる事が出来るからです。

毎年、4月に入ると、家の前を一ノ木戸小学校へ入学するピカピカの1年生が上級生を先頭に隊列を組んでゾロゾロと歩いて行きます。中には立ち止まる子供や列からはみ出る子供やいろいろな、それはそれは先導役は大変な様です。自分も幼い頃こんなだったろうと思います。道行く先々で何にでも興味が湧き、特に犬や、猫などの動物へは立ち止まり声をかけ、その場から動かずいる子が、上級生にしかられ列に戻されているのを見て、日本の学童は行儀がいいのか？それともPTAがうるさいのか？それとも、交通事故が起きたら学校へも責任が問われるからか？判りませんが、海外の治安の悪い所でさえこの様な光景は見られないのになあ！と思いつつ、ここは日本なのだからこれでいいのだと納得しています。

やがてこの子供達も成長してそれぞれ進学して就職します。現在、若年層の雇用の七五三現象が起きているそうです。就職してから3年以内で止めてしまう現象で、中学を出て就職した人の70%が辞め、高校出たから就職者の50%、大学出たからの就職者の30%が辞めてしまう、いわゆる定職につかないフリーターになる若者が急増しています。それだけでなく不景気でリストラの最中であり、就職難もあって今後はさらにこのフリーター族が増える様です。

諺で「石の上にも3年」とありますが、いまの若者は1年でも辛抱できません。国民みな中流家庭といわれて久しいですが、欲しいものは買いつけてきて、何不自由なく育った子供達は、自分の思い通りにならない不自由さを感じる経験・体験が少ない為、社会に出て、とたんに困難に直面すると我慢できず、辞めてしまうのでしょうか。反射的な諺に「かわいい子には旅をさせろ！」またライオンは自分の子供を谷へ突き落とすそうです。そして逞しい、我慢強い自立した大人へと育てるんだと思います。

幹事報告

荻根沢 隆雄 幹事

- ◎ 三条市職業訓練校より修了式ご出席のお願いが届いております
とき 3月11日(木) PM3:00~
ところ 三条市職業訓練校
※ 佐野会長出席予定
- ◎ クラブ休会のお知らせ
3月17日(水)は**休会**となっております。
お間違えのないようお願い致します。

ニコニコBOX

佐野勝栄さん

皆さんこんにちは。先週の親睦例会大勢のご参加有難うございました。

荻根沢隆雄さん

29日の会員増強セミナーにて東京恵比寿Rの井上象英様(女性)の基調講演大変良かったです。会員増強にご協力願います。

広岡豊作さん

親睦例会で皆さんに喜んで頂きました。その後の国際交流も素晴らしい一時でした。

斎藤弘文さん

- ① 親睦例会の美味しい料理有難うございました。
- ② 卓話当番ですがご迷惑をおかけ致します。

山田富義さん

新春親睦例会に大勢のご参加有難うございました。

藤田説量さん

- ① 懇親会で親睦委員会御苦勞様でした。松木屋さんのご苦勞有難うございました。
- ② 日戸先生、斎藤さんスピーチ御苦勞様です。

杉山幸英さん

先日の親睦例会楽しく過ごさせて頂きました。本日の卓話、日戸会員、斎藤会員有難うございます。

石塚欣司さん

先週の夜例会では大変お世話になりました。

会田二郎さん

日戸先生、斎藤さんお話し楽しみです。
新春例会はとっても楽しかったです。親睦担当の方々ご苦勞さまでした。

菊池 渉さん

3月なのに寒いですね。気がゆるむと風邪をひきますので要注意!

小越憲泰さん、川瀬康裕さん、丸山行彦さん

日戸さん、斎藤さん卓話御苦勞様です。楽しみにしております。

佐藤 武さん、藤田紘一さん

都合により早退させていただきます。

3月3日分 ￥22,000
今年度累計 ￥786,000



卓話

日戸 平太 会員



恒例のスピーチが、とうとう私のところに番が廻ってきました。

私は、昭和48年に入会させていただきました。内山裕一が来て、面白い会があるからメシ食べに来いと言

うことで、入会させていただいたところがございます。40年前になりますか10周年記念式典がございました。その時の会長が藤田さんでした。生業と申しますか、習慣として何周年といえますと、お土産を出席した方たちにお渡しするのですが、その時どうした訳か、お祝いの引き出物よりも袋がかなり大きく、会長の挨拶で“大きな袋を用意しておきましたので、お帰りの時、三条のいい品物をたくさん買って帰っていただきたい。”と云うことでした。会長とはそういういいことを言うべきなのか、さすがロータリーだな、と感心したものでした。その時ゲストとして呼び出した有名人が、宝井馬琴さんというコウダンシでした。コウダンシと言うのはスマートな男の好男子、と言う意味ではなく、おしゃべりする講談師の方でした。もうひとり、藤山一郎というNHKで歌を歌っていた人でした。司会は小林ハルミさんでした。終わった後、おっかない顔をしていたので、どうしたんですかと聞いたところ、“宝井馬琴さんのほうは、ありがとうございます、お世話になりました。と帰っていかれましたが、NHKの方はおいばりで、こんな田舎に来て、話をしても接待が非常に下手だ。と云うて文句を言っただけで帰って行った”と云っていました。“小林さん、しょうがないじゃないですか、いいやつもいれば、悪いやつもいますよ。”と言いましたところ、“そうだな、いろいろな人がいるよな”と云っていられました。

昭和48年にはじめてロータリーに行ったとき、人から、小出先生という方がおられ、えらい人だから、行ったら一回お会いしたらどうだと言われていたので、挨拶に行きました(今は二代目が医院を継いでおられます)。その人がよく来たね。とおっしゃられるのですよ。私は、確か初めてお会いしたはずだと思いましたが、実は、私が東京にいた頃の、ボート部の先輩だったわけです。明治39年生まれで、ちょうどうちの親父の世代でした。親睦旅行に行ったとき、小出先生が私に聞かれました。“日戸君、眉毛が白くなるとへ

その下も白くなるそうだね”と。私も皮膚科ですから、“ホルモンの関係でしょうね。”と答え、それ以上言わなくて小出さんの眉をじっと見ておりました。それから小出さんが喜び、“分かっちゃったかね”といわれました。いい先輩がいたものです。

この先輩、終戦のころ、陸軍大佐だったのですが、日本にまだペニシリンができない頃、日本のペニシリンを作るチームのトップをやっていたらしいです。これも小出先生のお話から聞いたのですが、当時の日本は、その造り方や、大量生産する方法を知らなかったわけです。ドイツの潜水艦が日本へ送ってきたものを使ってきたんですね。“その帰りのドイツの潜水艦が、母国へはつかなかったようだよ、日戸君”と小出先生がおっしゃったので、“後でその辺、インド洋あたりを探してみますか。”とわたしも答えました。それから卓話の時間になったわけですが、小出先生は顔を真っ赤にして、汗を流してお話をされました。何の話かといいますと、当時、日本の教育がおかしい、どうもあの教育方法にはついていけないと言う主旨のお話でございました。まさに、熱血漢であり、硬骨の人であったわけであります。うちの妻に、硬骨の人の意味が分かるか聞いたところ、“半ボケで、頭がおかしくなった人（恍惚）を思い浮かべるから、骨の硬いバーンとした意味だと申し上げないと誤解を招く”と言われましたので、あえて、コウコツの話をしたわけです。

30周年記念のとき、1年間、交換学生がございました。イミー・ウエルマンというなかなかの美人の女の子が、カリフォルニアだったと思いましたが、そこから来ました。川俣さん、五十嵐さん、梨本さんと私のところで、3ヶ月づつホームステイしました。なかなか規則が厳しく、ディスコへ行っちゃ行けないとか、海水浴に行っちゃいけないと命令がありました。しかし、4人で密かに謀って、海水浴ぐらいはやらせてあげよう、ディスコに行っても知らん振りしてやろうとあって、1年間過ごしていきました。なかなか規則がございまして、三条東高校の校長先生が、話が分かる先生で、“それはいいことですね”とすぐ引き取っていただいたわけです。また、あちこちの学校で、お話をする機会も設けたり、お茶を習ったり、剣道の防具をつけてみたりと、色々挑戦していました。ロータリーが引き受けたわけですが、むしろ、家で相手をした奥様の方が大変だったと思います。1年終わって帰るとき、新幹線まで送って行きましたら、ホームが見送りの三条東高校の生徒達でいっぱい、皆が別れを惜しんでいました。短期間ではありましたが、留学のプラスの面

があったのではないかと思います。

30周年記念のときにゲストで講演に来ていただいた方が、平岩弓枝さんでした。今は、もう70歳ちょっとという方です。今日は会長の許可を得て、昔のロータリーの会報をコピーしていただいたので、後で読んでいただきたいと思います。日本の心と言う題になっていますが、ある娘さんの物語が出ております。その娘さんのお父さんは、上海へ出向していた商社マンでした。その奥さんが中国人で、奥さんのお父さんが大財閥で、南京から上海までの土地を持っている大コンツェルンだったんですね。それが、大の日本びいきで、そこに日本人がきたわけです。ちょうどそのとき、内乱がございまして、香港に逃げるわけです、しかし、だんなさんのほうは上海で後片付けをしているところに、空襲に遭い死んでしまう。そうすると、その家族は国籍がなくなる、地球上に国籍がない人はたくさんいますが、国籍がないとき、人間の尊厳といいますか、それに絡まる国家の権力というところを、平岩さんはうまく書いていますので、ぜひ、呼吸を立てて、ゆっくり読んでいただきたいと思います。

30年前は宝井馬琴さん、20年前は平岩弓枝さん、10年前は、小椋佳さんでありました。美しい音楽と、最後に良寛様の生き方を劇にしようとお話をされていまして。時代の流れが、そこに出ているように私には感じられます。2006・7年に50周年記念式典が、催されるはずですが、どんな記念式になるのか、もう3~4年くらいは、私も生きられると思いますので、いい記念式になることを期待し、若い人たちに夢を預けて、卓話に変えさせていただきます。今日は、どうもありがとうございました。



斎藤 弘文 会員



1月28日に卓話をせいとお話がありました。タイトルは、ロータリーの思い出とか、ロータリーに関することを何か話してほしいということだったのですが、相手を見ましたら、藤田説量先生でした。驚きまして、とても一緒にはできないと逃げたのですが、そうしたところ、川俣さんが変わりにやり、大変立派で好評だったとの話を聞きました。もう私の番は来ないのではないかと、思っていたところ、やっぱりロータリーと言うところはひどいところで、またやれ、ということになりまして、今日になったわけです。また、相手を見たら日戸さんという、本当の重鎮中の重鎮と一緒にと言うことで、またまた運がない男だなと感じているわけです。ロータリーにつきまして、私なりに言わせていただきますと、私ほど強運のロータリアンはいないと感じています。

私は、1982年（昭和57年）1月6日に入会させていただきました。もう少しで、43歳になるところであったと思いますが、そのときの会長が渋谷賢一さんと、幹事が日戸平太さんでした。そんなことで、奇しくもこの半年間、幹事さんから鍛えられまして、その鍛が今日にあるのではないかと、そんな気がしています。もう一つは、新会員になりますとこの卓話を命じられるわけです。早く皆さんに顔を覚えてもらいなさい、斎藤君がどんな人柄であるのか見てもらいなさい、と卓話を与えて頂いた訳です。その時色々言われたのが、“あなたはよそ者なのだから、よそ者が、三条に来た時に感じたことを話してくれ、”という事でした。だいたい色々な話をしましたが、その中で、豚肉と牛肉の話をしました。その卓話が終わりましたら、藤田説量さんが飛んでまいりました。“斎藤さん、今の話は、あまりしないほうがいいね、本当にあなたが言ったとおりなのだけど、あなたの話を聞いて、快く思う人はいないのだよ、昔の辛い思い出を話すと、不愉快になる人がいるのだよ、今の話はやめなさい。”と私にそんな示唆を与えてくれたのは、藤田説量さんでした。奇しくも、日戸さん、藤田さんとは、それ以来ずっと、入魂のお付き合いをさせていただいています。やはり私は、相手が色々な事があつたときに、影でぶつぶつ言わずに、直接こういった示唆を与えてくれると言うことは、どれだけ人の成長に役立つか、それを身をもって体験した一人でございます。もし、影口で、あんな話をして生意気だとか言われてい

たら、私はロータリーをやめていたかも知れませんが、それ以来私は、感じたことを素直に申し上げるつもりであります。また、私は変わっております、この半年間、親睦に配属されないで、環境保全に配属されました。それから半年後、7月1日からSAAと言う立場を与えられました。ちょうど1年半経過したときにSAAという大役を仰せ付けられました。もし今、内容を知っていたら、おそらく断っていたかと思いますが、本当に内容も知らずに、SAAをさせていただきました。それから10年経ち、小林久満太会長の下で、幹事をさせていただきました。それから10年経って、会長と言う大役をおおせつかったわけです。

私は、色々な人とのふれあいがございすけれども、小林久満太さんとは正直話10年間一度も話をしたことがございませでした。見てくれ、風貌が私よりちょっと大柄で、とっつきにくい顔をしておりまして、あまりおしゃべりもしないと思っておりましたので、私自身が避けてきたように思います。ですが、10年間一度も話をしたことがない人から、突然電話を頂きまして、“私は、会長になるんで、あんた幹事を引き受けてくれんかね”と言われました。私もたまげまして、最初、小林久満太さんとは思えないくらい驚いたのですが、私は、一つ返事で引き受けました。“分かりました”と答えてから、すぐ三条証券にとんで行きまして、それから色々な話をさせて頂きました。その時に、小林さんが戦後の東大第1号の卒業生だったということ。湯東で、700~900町歩の大地主の方だということも聞きました。時のガバナーが原さんと、新津の駅前の土地を全部持っていた大地主だったわけですが、奇しくも大地主同士の会長の下で、幹事をさせて頂いたわけです。その時に小林さんは言いました。“900町歩とは本当は地主とは言わないんだよ。原さんみたいに700町歩以上（だったと思いますが）ないと地主とは言わないんだよ”とおっしゃっていましたが、大変な方だったと思っています。

私が幹事をしているときに会長に一言だけ申し上げたことは、“会長とは、やはり色々な形で色々な人に色々世話になるのだから、あまりけちけちしたことは言わないで、大きく構えてください。”と申しまして、それから活動が始まったわけです。“役員の人が一生涯懸命働けば、その手柄は、全部会長さんに行くのだから、ぜひ、役員・理事の皆さんの気持ちをしっかりと捕まえてください。それには、まず、小林会長そのものが、役員や理事から知ってもらわなくては行けないので、是非一度、自宅に招待してください。”と申しまして、湯東の自宅にお邪魔した覚えがあります。大変な

料理を、料理屋さんから取っていただいて、歓待をされたわけですが、そのとき飲み疲れまして、途中で席を立ち、お勝手にいき、奥さんにお茶はないですか、と聞きましたら、ありますということで、湯飲みを渡され、一升瓶からお酒を注がれるわけです。お酒ではなく、お茶を下さいといいましたところ、私どもでは、これがお茶なのです。潟東では地主になりますと農家の人 came 時、お茶を出すのではなく、お酒を出していたそうです。すごい人がいるものだ、と感心したわけです。そんなことで、小林さんとも、色々な付き合いをさせていただきました。あの頃は、証券会社の景気真っ盛りの頃でしたので、今ではとてもあんなことはできないと思いますが、大変気持ちのいい1年間を過ごさせていただきました。

今思いますと、私が入りがけの頃は、なんだかんだ、手作りだとか、もてなすということ、自分が犠牲になるということ、問わずにやってきたと思います。今の会の運営を見ていると、スピーディーに、スマートにという形の中で、かっこよく、そんな形のものが多いような気がしています。一つにファイヤー・サイド・ミーティングといまして、小型会合があり、昔は、各家庭に訪問いたしまして、その家庭で会合を開き、その後、ちょっとしたお酒を出され、そのような会合がありまして、私も楽しみにしていましたが、いつの間にか、なくなって、専門の料理屋さんでやるようになってしまいました。やっぱり、心と心が通い合うには、単なる形式といえますか、自分が汗をかかないということをやっていると、だんだんと会というのは衰退して行くのではないかと気がしています。

昔、地区大会や、色々な大会に行くと、会費もさることながら、やっぱり、おみやげ物を一生懸命に考えて、その土地の名物などをつけてくれたものです。ところが、残念ながら、地区大会などへ行きましても、昼の食事はおにぎり2つとか、そういう風な形になってしまったところを見ると、これからのロータリーはどこへ行くのだろうか、もう少し、原点に戻って、自分たちが自分たちの気持ちで、自分たちのお金で集まっている会ですので、やっぱりお互いが真剣になって、汗をかくことが必要ではないかと思えます。私が入会したときは、60名の会員でした。多いときは80人を超えた会員数のときもありました。今見ると、65名の会員数になっております。今、色々なことが言われてきていますが、真剣に心と心を通い合わせていけば、会員数も増やしていけるのではないかと思えます。これだけの皆さんですし、いろいろな場面で活躍されているわけですので、ロータリー以外でも色々知り合いがいっぱいいます。私も頑張って会員の発掘に努力するつもりです。皆さんもせめて一人くらいは、いい仲間はいらざるはず。昔、朱に交われれば赤くなるといいますが、いい人には、いい友達がいるといわれますが、義務的にも考えても、一人くらいは入会を勧めて入れるべきではないかと思えます。私も自慢ではないですが、今、この会の中で、一番入会を勧めて、スポンサー（紹介者）になっていると自負しています。皆さんも、一人でいいですので、仲間をいれ、ロータリーも口で言うのではなく、体験させてやる、これが、ロータリアンとしての最大の義務ではないか、そんな気がします。少し生意気なようですが、本日は、本当にありがとうございました。



Lend a Hand

次週 例会 3月17日(水) クラブ休会

次々週例会 3月24日(水) 外部卓話

三条工業高校 校長 斎藤 彬 様

